

2歳までの栄養が重要



■ 基調講演

ユニセフ事務局長 アシ・ベネマン氏

世界の乳幼児死亡数は2006年に1000万人をきった。しかし、その半数が、アフリカで亡くなっている。特にサハラ砂漠以南の地域は、5歳未満の子供の生存が世界で最も難しいとされる。

ユニセフで保健システムが機能していれば、子供の死を防ぐことができる。地域単位でシステムを改善し、包括的な保健サービスを拡

充していくことが求められる。最近、食糧価格が世界で短期間で上昇していることもあり、子供が十分な栄養を得られていないかどうかを懸念している。特に2歳までの栄養摂取はとても重要だ。学習能力に影響が出るため、やがて経済力にも跳ね返り、生涯を通じて影響を受けることになる。ユニセフでは世界保健機関(WHO)などと連携しながら、子供が食べられずに働かされたり、物ごいをさせられたりしていないかを調査している。

リベリアでは、学校で給食の出ることが、親が子供を学校に通わせる大きな動機になっている。しかし、食糧価格の高騰で給食の提供が困難になると、就学率が下がる恐れがある。早く対策を講じなければならぬ。

子供の健康には、母親の力が絶大な影響を及ぼす。しかしアフリカでは、多くの母親が妊娠・出産を機に亡くなってしまふ。アフリカの妊産婦と乳幼児の死亡率の改善が、世界的な目標となっている。

では、それぞれの国や地域の問題につ

「アフリカの課題」世界銀行・ユニセフ若者会議

発展 まずは教育

7か国の若者による国際テレビ会議「TICA D4 ユース・ダイアログ」(世界銀行、国連児童基金主催、読売新聞東京本社協力)が5月26日、東京都千代田区で開かれた。第4回アフリカ開発会議や北海道洞爺湖サミットなど国際会議の場に、若者の意見を届ける目的で、開発、環境、平和、人権などアフリカの課題について議論した。国連児童基金(ユニセフ)も「アフリカ子供白書」を刊行し、アフリカの子供が置かれている厳しい現状を報告した。

(生活情報部 月野美帆子、上田詔子)

「ユース・ダイアログ」は、横浜で5月末に行われたアフリカ開発会議(TICA D)に合わせて開かれた。参加したのはガーナ、セネガル、南アフリカ、タンザニアのアフリカ4か国と、韓国、ベトナム、日本のアジア3か国の若者。各国で国際問題や人権問題に取り組むYDP(世銀の主導で組織された若者ネットワーク)などのメンバーや学生約200人が、テレビ会議システムを利用して臨んだ。

日本会場となった世界銀行東京開発ラーニングセンターに集まった若者は約100人。会議では、TICADの



7か国の若者が意見を交換した「ユース・ダイアログ」。8日日本代表の高校生(前列の4人)も参加した(東京都千代田区)＝里中英二撮影

継続的な協力を訴え

主要課題に関連して、各国の若者が自国の社会状況や課題を説明し、若者として社会とどうかかわっていくか、また、日本の意見表明を行った。

は、東京大学2年生でYDP

ジャパンの田畑直さん。「一般的に日本人の若者は、アフリカに対して自分の生活には関係がないと思っているが、それは正しくない」とし、「集まった私たちが若者が、対話を重ね、継続的な協力関係を築いていこう」と訴えた。

セネガルはストリートチルドレンが増えている実態を報告。若者グループが青空教室などを通じて子供たちへの教育機会を提供していることを伝えた。

ガーナは学校給食や教科書配布、ポリオワクチン接種など子供への支援策を報告。また、若者が支援を行うための意思決定プロセスに参加することの大切さを訴えた。

南アフリカは教育の遅れが経済発展の足かせになって

いる。加えて、現在の表

■ 基調講演



セネガル出身の歌手 ユニセフ親善大使 ユッスール氏

私はミニージャシヤンとして、アフリカ音楽を通じてマリリアの危険性など、世界にメッセージを発信してきた。アフリカのために、今取り組まなければならないことが二つある。一つは、子供をマ

ラリアから守るために蚊帳を配布すること。多くの子供がマリリアで苦しんでいる。もう一つは、すべての子供に学校へ行く機会を与えること。女性は以前、家事労働を担うために就学できなかった。た。女兒も母親を手伝うため、勉強の機会を逃してきた。今ユニセフが行っている教育支援は、アフリカ開発のための大きな助けになっている。

地球は一つの惑星だ。みな同じ時間に生きている。せい、アフリカで何が起きているのか知ってほしい。アフリカは、貧しいだけの地域ではない。絶えず前進している。多くの国が石油を産出し、他の天然資源も豊富だ。

しかし、資源の利用の方法は適切でないかもしれない。アフリカもアジアも、アフリカが抱える問題解決のために、みなで考えていかなければならない。

若者も、未来のための政策決定のプロセスに、参加することが大切だ。世界中でコミュニケーションを図りながら、教育や経済などの課題について一緒に考えてい

マリリア対策に蚊帳

初のアフリカ子

ユニセフは5月末に「アフリカ白書」を刊行した。毎年「世界白書」を発行しているが、アフリカ化した白書をまとめたのは初め。産婦と乳幼児の死亡率が高い現状を告し、保健サービスの充実などを訴えている。

白書は国連が掲げる「ミレニアム



ユニセフは「アフリカ子供白書」を初めて刊行し、アフリカの子供の現状を報告した(横浜市内)

重要

乳幼児死亡数は2006年、サハラ砂漠以南の地域は、1万人をきった。しかし、アフリカで亡くなった子供の生存が世界で最も低い。

「ユニセフ」で保健システムが整備されれば、子供の死を防ぐことが可能。地域単位でシステムを構築する必要がある。

継続的な協力を訴え

主要課題に関連して、各国の若者が自国の社会状況や課題を説明し、若者として社会とどうかわかっていくか、また、日本の意見表明を行った。

「ユース・ダイアログ」は、東京大学2年生でYDP



7か国の若者が意見を交換した「ユース・ダイアログ」。J8日本代表の高校生（前列の4人）も参加した（東京都千代田区で）＝里中英二撮影

リベリアでは、学校で給食の出ることが、親が子供を学校に通わせる大きな動機になっている。しかし、食糧価格の高騰で給食の提供が困難になると、就学率が下がる恐れがある。早く対策を講じなければならぬ。

子供の健康には、母親の力が絶大な影響を及ぼす。しかしアフリカでは、多くの母親が妊娠・出産を機に亡くなってしまふ。アフリカの妊産婦と乳幼児の死亡率の改善が、世界的な目標となっている。

ジャパンの田畑直さん。「一般的に日本人の若者は、アフリカに対して自分の生活には関係がないと思っているが、それは正しくない」とし、「集まった私たちが若者が、対話を重ね、継続的な協力関係を築いていこう」と訴えた。

セネガルはストリートチルドレンが増えている実態を報告。若者グループが青空教室などを通じて子供たちへの教育機会を提供していることを伝えた。

ガーナは学校給食や教科書配布、ポリオワクチン接種など子供への支援策を報告。また、若者が支援を行うための意思決定プロセスに参加することの大切さを訴えた。

南アフリカは教育の遅れが経済発展の足かせになって

参加した高校生

「遠い国の印象変わった」

「ユース・ダイアログ」には、渋谷教育学園渋谷高校（東京）の2年生4人が参加した。4人は北海道洞爺湖サミットの公式プログラムとして開かれるJ8にも日本代表として参加する。直接対話によって、アフリカという「遠い国」のイメージが大きく変わったと口をそろえる。

篠生春菜さんは「貧困のイメージが強かったが、考えを変えないといけないと思った。貧困対策以外に、どんなかわり方ができるのか考えさせられた」と話す。岡洋平さんは「アフリカについて知識不足だった。直接話すことで考えが変わった」と話し、「J8

大人とは違う成果を

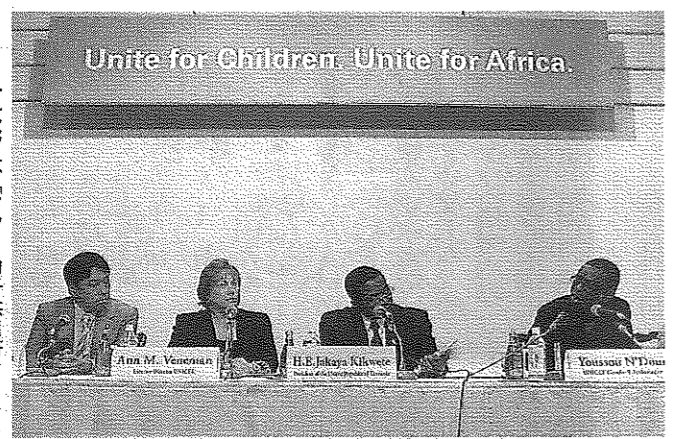
J8（ジュニア・エイト）中高生がG8サミット開催地に集まり、サミットの主要課題を子供の視点で話し合う。2005年にユニセフなどの主催でスタート。G8各国から4人（男女各2人）ずつ参加し、共同声明をまとめてG8に提言。北海道洞爺湖サミットでは7月1～10日に千歳市で開かれる。

歴史を紹介し「発展のパワーは教育にある」と強調した。2時間半の会議の最後に、議論のポイントがまとめられた。援助する側との継続的な対話が必要だとした。また各国の若者のリーダーシップを育てていく必要があり、TICAD開催に合わせて、今後若者同士の対話を続けていくことで意見が一致した。

初のアフリカ子供供白書

ユニセフは5月末に「アフリカ子供白書」を刊行した。毎年「世界子供白書」を発行しているが、アフリカに特化した白書をまとめたのは初めて。妊産婦と乳幼児の死亡率が高い現状を報告し、保健サービスの充実などを訴えている。

白書は国連が掲げる「ミレニアム開



ユニセフは「アフリカ子供供白書」を初めて刊行し、アフリカの子供の現状を報告した（横浜市内で）

マラリア対策に蚊帳

た。女兒も母親を手伝うため、勉強の機会を逃してきた。今ユニセフが行っている教育支援は、アフリカ開発のための大きな助けになっている。

地球は一つの惑星だ。みんな同じ時間に生きている。アフリカで何が起きているのか知ってほしい。アフリカは、貧しいだけの地域ではない。絶えず前進している。多くの国が石油を産出し、他の天然資源も豊富だ。

しかし、資源の利用の方法は適切でないかもしれない。アフリカもアジアも、アフリカが抱える問題解決のために、みなで考えていかなければならない。

若者も、未来のための政策決定のプロセスに、参加することが大切だ。世界中でコミュニケーションを図りながら、教育や経済などの課題について一緒に考えていこう。

5歳未満年間500万人死亡 悲惨さ浮き彫りに

「発目標」に対し、アフリカ地域の達成度を検証している。同目標は貧困や飢餓の撲滅を目指し、2015年までに国際社会が達成すべき八つの目標値を設定している。特に5歳未満の子供の死亡率を、1990年の3分の1にするとしている。

白書によると、5歳未満の子供の死亡率について、エジプトなど北アフリカ5か国は目標達成の見込みだが、サハラ砂漠以南の48か国では達成が厳しい状況だ。この地域では06年、およそ6人に1人の子供が5歳の誕生日を迎えられなかった。

アフリカでは06年に、5歳未満の子供の死亡数が500万人に上った。死因の40%が下痢や肺炎で、多くの子供が予防可能な病気で命を落としている。マラリアやエイズによる死者も、それぞれ18%を占める。栄養障害も深刻だ。5歳未満の子供の約30%は低体重の状態にある。

白書は、妊産婦の置かれている深刻な状況も指摘している。05年、サハラ砂漠以南の妊産婦死亡率は先進工業国の100倍以上にもなった。

また世界的な食糧不足と価格上昇についても言及し、白書は「母子の栄養状態は、緊急を要する課題」と強調している。